

うに郷通信

No.145
令和3年(2021)8月

発行：宇仁郷まちづくり協議会 (編集:情報部会)

2021年度総会報告

6月26日(土)八王子会館において2021年度宇仁郷まちづくり協議会総会を開催しました。緊急事態宣言は解除されていましたが、密を避けるため、来賓はまちづくり協議会担当の加西市職員2人ととどめ、幹事会のメンバーと各種団体の責任者など最小限の参加で行われました。

今年度の重点施策として、

- 宇仁郷まちづくり計画の策定
- 宇仁地区の土地利用
- 地域主体型交通の利用促進
- Uターン・Iターン対象者の情報収集と情報発信

の4項目が承認されました。

また、日吉地区と合同で活動してきた多加野地区はつらつ委員会が解散し新たに宇仁地区はつらつ委員会が発足したこととともない、「宇仁校区はつらつ部会」として編入することが承認されました。これにより、宇仁郷まちづくり協議会は、11部会で活動することになりました。

宇仁校区はつらつ部会について

多加野地区はつらつ委員会が小学校校区ごとの活動に再編され、「宇仁校区はつらつ部会」として宇仁郷まちづくり協議会の一つの部会として仲間入りしました。

これは、社会情勢の変化にともなう人口減少や高齢化等により、地域の自治会や各種団体等では役員の担い手不足をはじめ、様々な地域課題が山積していることから、地域のまちづくりを担っている地域運営組織である「ふるさと創造会議」や「まちづくり協議会」と、校区単位で地域の福祉活動を実施しているはつらつ委員会との組織の連携および統合を進め、地域組織の再構築を図るとする提案(行政指導)があつて実現しました。

統合のメリットは、①重複解消による活動負担の軽減(役員の重複解消・軽減、総会の一本化や会議回数の負担軽減)、②地域内での問題・課題の共有、③他の部会や団体同士の連携・協力、などを挙げることができます。

これから宇仁校区内の福祉問題の課題解決に取り組みながら、住民の健康福祉増進に寄与する活動を推進していきます。事業として、

- 3世代ふれあい事業(交流事業)
- あつたか友愛推進大会などの開催(研修会)
- あつたか声かけ作戦の事業実施協力
- 地区内いきいき委員会のとりまとめ

などを計画していますので、ご理解とご協力をよろしくお願い致します。

部会長は、志方敏泰(宇仁地区代表区長、国正町)、副部会長は、民生委員・児童委員、老人クラブ、婦人会(女性会)、宇仁小PTAのそれぞれ宇仁地区代表でその任にあたります。(宇仁校区はつらつ部会)



8月の宇仁ふれあいバス運行日および新待合所についてのお知らせ

宇仁地区の皆様には「宇仁ふれあいバス」について、ご利用・ご支援をいただきありがとうございます。

さて、今年の年初カレンダーには記載されておりませんが、東京オリンピックの開催に伴って8月の休日が変わっており、宇仁ふれあいバスの運行日も変更されますのでお知らせします。ご利用の際は運行日の確認をお願いします。

また、8月2日(月)から、滝野図書館に新しく待合所が設置されます。図書館の利用および加東市アート館の鑑賞、播磨中央公園での散歩などに便利です。うにバスをご利用ください。(国正線・小印南線とも停車します。8月の広報等配布時に新しい時刻表を配布しますのでご確認ください)

【運行する日】

8月11日(水) 小印南線を運行します

【運休する日】

8月9日(月) 山の日の振替日 で休日のため運休します

滝野図書館待合所

加東市地域交流センターの西側入り口付近

(宇仁ふれあいバス部会)

宇仁小学校の思い出 ⑤

今もなお道路横のフェンスに掲げられている、在職時代に作成した「あいさつ・なかよし日本一の学校」の看板。それを目にする度に、様々な思い出が甦り、笑顔で元気いっぱい頑張っていた子ども達の姿が目に見えてきます。そして、そんな懐かしさと共に、今も「日本一の学校」を目指している子どもたちに頼もしさすら覚えます。

地域との繋がりが強く、少人数学校ならではの思い出は沢山ありますが、一番の思い出は何と言っても「卒業式」。子ども達ひとりひとりが壇上に上がり、そこで語った力強いスピーチ。将来の夢やここまで成長できた感謝の気持ちを自分の言葉で熱く語る姿に、感動した参列者の目に止めどなく流れる涙・涙・涙。まさしく卒業生ひとりひとりが主人公でした。巣立っていく喜びや別れのつらさを参列者全員で共感しあえた、日本一の卒業式だったと思っています。



二番目の思い出は、「さつまいも祭り」。綿の種と子ども達のメッセージを付けた風船を一齐に飛ばしたところ、遠くは北海道、そして福島県や大阪市からお礼の手紙が届きました。宇仁小から何百キロと遠く離れた地に運んでいった自然の凄さに目を見張ると共に、見知らぬ土地に住んでいる、見知らぬ方々と心が通じ合い、交流が始まった心温まる貴重な体験でした。



三番目の思い出は、校舎の老朽化・耐震化に伴う改築か統合かで紛糾混迷した時代だったこと。その対応に追われ、いろいろな問題も山積で大変な時期でした。体育館では、何度となく研修会や決起集会が開かれ様々な意見が飛び交ったものでした。また、当時の市長が「道路特定財源で校舎を改築する!」と発信したため注目をあび、朝日テレビやテレビ大阪の番組にとり上げられ、全国紙にも何度も掲載されました。報道記者が来校する度に、2階の階段で老朽化証明のためにビー玉を転がしたのは、今となっては懐かしい思い出です。

これからも、宇仁郷まちづくり協議会皆様方のご支援のもと、いつまでも宇仁小学校が「あいさつ・なかよし日本一の学校」であり続けることを心から願っています。

(H20.4.1~H24.3.31 校長 小林俊広)

宇仁郷のあゆみ 第一章 宇仁郷の黎明期④

④-1 JR 加古川線の電化

平成 7 年(1995)1 月 17 日阪神・淡路大震災が発生。加古川線は迂回路として重要な役割を果たしました。

地震によりJR神戸線(山陽本線)が寸断され、姫路・加古川方面からの阪神間への乗客が迂回路として谷川から加古川へのルートの加古川線と和田山から姫路へのルートの播但線に殺到し、谷川駅では



社町駅のホームと駅舎

平常時の数倍の 8,500 人/日を超える乗り換え客で混雑しました。この教訓から加古川線は非常時の備えとしての意義が再認識された一方で、沿線自治体で構成される「加古川線電化促進期成同盟」の運動等により、平成 13 年(2001)にJR西日本が加古川線の電化を発表。総事業費 60 億円(JR・県・沿線自治体が 45 億円、沿線地域の寄付金 15 億円)で平成 16 年(2004)12 月 19 日加古川~谷川間 48.5 キロ 21 駅の電化が完成しました。

開業時の電車には西脇市出身の画家横尾忠則さんのデザイン「見る見る速い」「銀河の旅」「滝の音・電車の音」「走れY路地」のラッピングカーが走りました。

電化により社町駅~大阪駅間の所要時間は1時間30分(最速)に短縮され、また沿線の駅舎もモダンな建物に改築されました。特に社町駅では 60 台の駐車場もできて利便性が向上し大阪・神戸方面への通勤客が増えました。



「見る見る早い」号